

独立行政法人国立病院機構  
沖縄病院 広報誌

発行日  
平成24年9月12日  
第27号  
発行所  
沖縄県宜野湾市我如古3丁目20-14  
編集発行 広報委員会



**基本理念** 患者さまの立場を尊重し高度で良質の医療を提供します。



辺戸岬：当院から北に約104km。沖縄本島の最北端にある岬。サンゴ質の絶壁から成り、岬上は広い台地となっている。好天の日は、22km離れた奄美群島の与論島や沖永良部島を望むことができる。沖縄海岸国定公園に含まれる。

- 運営方針**
- ①政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
  - ②患者さまの視点に立った、温かく思いやりのある接遇
  - ③健全な経営基盤の確立
  - ④安心して療養に専念できる快適な環境
  - ⑤臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実



表紙の花： オオバナアリアケカズラ(大花有明葛)：学名：Allamanda cathartica / キョウチクトウ科 / 園芸種、南米ギアナ原産。花は漏斗形で鮮やかな黄色。熱帯・亜熱帯を代表するツル性の花木で、黄色い大輪の花が美しい。沖縄では丈夫な性質を利用して街路などに良く植栽されている。花の大きさは直径約10cm。

目次

誇りをもって、謙虚に診療に向き合おう  
～すべては、患者さんのために～…………… 2

第1回キックベースボール大会  
盛大に開催される…………… 3

- 優勝・西2 医事チーム…………… 4
- 準優勝・中3 病棟…………… 4
- 院長賞・喜友名 由紀…………… 5
- 副看護部長・新里 恵…………… 5

2012年日・中・韓・フレンドシップウェイト  
リフティング(力道)トーナメントに参加して… 6

トルコを旅して…………… 7

無料公開講座を開催しました…………… 7

ニューヨーク・シンフォニック・  
アンサンブルが今年もやって来た!! …… 8

研修報告…………… 10

医事統計・編集後記…………… 12

ロゴマークの意味



南国沖縄のイメージを表現する為に、原色(はっきりとした色)を基調とし、ベースは沖縄 okinawa の“O(オー)”を表しています。肉太い赤で太陽を表現。中は波をブルーで表し、全体として健康を象徴する人間の笑顔をかたち取っています。



## 誇りをもって、謙虚に診療に向き合おう ～すべては、患者さんのために～

院長 石川 清司

### 沖縄病院の診療の特徴

沖縄病院には救急診療部門はない。しかし、かなりの頻度で予定外、予約外の診療を行っている。その理由は、当院の診療の特性にあるものと考えられる。

当院の診療の特徴は、「がん」と「神経難病」の診療にある。いずれも厳しい疾患である。肺がんの治療成績は着実に向上しているものの、治療の難しい領域であることには間違いはない。神経・難病においては気管切開、そして人工呼吸管理と10年、20年の長い単位での支援を必要とする領域である。最新の医療の提供と同時に温かな看護、きめの細かい配慮が要求される。微妙に揺れ動く、患者さんの心の動きに対応した診療となる。

### 診療の基本姿勢

「がん」「難病」と向き合う姿勢には「謙虚」に「聴く」態度が基本になる。イソップ物語には、人生において最も大切なことは「謙虚」であることと記されている。傷つき、悩む患者さんの思いに対しては、細心の心くばりが必要であり、聴く姿勢が求められる。喜びは、共に喜ぶことで何倍もの喜びとなり、悩み悲しみは、共に悩むことで耐えることのできる悩みになることが指摘されており、まさしく共感の姿勢にある。

### 医学と宗教

医学と宗教は、共通のテーマを扱う。仏教は、人生において避けて通ることのできない苦

しみとして「生・老・病・死」を挙げ、四苦と称している。宗教は、生命には限りがあることを前提として「死・老・病」をとらえ、最終的に、如何に「生」きるかを問い続ける。

医学は、受胎から出産、新生児、成人、老年へと学問の体系が構築され、まさしく生・老・病・死の直線的枠組みをなしている。

残念ながら現代の宗教は、葬式宗教と化し、本来の宗教の演ずべき「生」に関する関与がおろそかにされている。一方、西洋医学は「生」を強調することに奔走し、「死」を敗北ととらえた。

患者さん個々の、人生という物語に関与する診療の現場には、現代宗教の弱点である「生」に対する関与、そして医学の弱点である「死」への対応がより調和を保った形で介入されるべきかもしれない。

### 基本に戻る

人は皆、「患者」としてとらえたい。不完全な存在である。弱い立場にある患者さんの一つ一つの言葉を「謙虚」に「聴き」、全力で支えていきたい。

そして、職員一人一人が、患者さんの言葉の中から多くのことを学び取り、不完全な存在としての自分自身に修正を加えていきたい。果敢に挑戦する誇りを抱いて。

## 第1回 沖縄病院

# キックベースボール大会 盛大に開催される

病院は多種多様の職種が混在する組織であり、職種間の連携が極めて重要であることは言うまでもない。職員の異動の多いこの時期に互いの交流と、部署どうしの連携を深めたいとの一念から大会を思いついた、就任間もない川畑副院長だった。

その川畑副院長の鶴の一声により、命を受けた島袋看護師長。早速、実働部隊（宮城、大塚、井上看護師長、津留診療情報管理士、長岡業務班長、大城庶務班長）を立ち上げた。

島袋師長を中心にキックベースボール大会を計画、進めてきたところだが、予定日の6月2日は、（沖縄地方は）梅雨のまただ中。当日も雨の確率は70%以上であった。

幸い、当日は快晴とまではいかないものの（日頃の行いが良い?）、昨夜の雨も上がり、何とか競技を開催することが出来た。

競技開始時間に併せ、続々と職員が集まり、天候不良も何のその。その数、なんと100名超、子供さんやご家族を併せると120名余の参加。その後、石川病院長の開催宣言で競技を開始した。



さあー、いざ試合開始となると、大会目的の、『勝ち負けにこだわらず』『無理はせず』『怪我もせず』の精神はどこ吹く風と言わんばかりか、我々実行委員

の、とにかく怪我をしないでくれ。との思いとは裏腹に、ハッスルプレーのオンパレード。

勝負に徹する監督。手加減のない男性職員の強烈



なキック、それを身を挺し（腹部で）見事にキャッチする女性職員（さすが、懐が深い）。ファッーと上がったフライを取りそこねたAさん。その後方で、見事キャッチするBさんといった離れ業あり（これぞ連携プレー?）。はたまた、転倒?なのか、ヘッドスライディング?なのか判らない、迷プレー、好プレー、珍プレーあり。どろんこになった職員も多数、老若男女、可愛らしい子供さんの参加ありと大会は大いに盛り上がった。



試合も順調に消化し、いよいよクライマックスの決勝戦。

優勝候補大本命の、西2・医事チーム対ダークホースの、中3・企画課・情報連携室・車庫チームが激突。試合は、西2チームが先制、中3チームが逆転、西2チームが追うといった接戦の展開に、敗れ去ったチームも、それぞれのチームの応援に熱が入った。最後は自力に勝る西2チームが逆転、雨天の熱戦を制し、栄えある優勝の栄誉を勝ち取った。

決勝戦は終始、雨が降りしきる中で行われた。無事全日程を終えることが出来た。

余談ではあるが、競技が終了し職員が撤収した後、これまでの雨とは比べられない程の、もの凄い土砂降りの雨となった。競技が無事終了した安堵からか、後片付けを終え、帰路に向かう中、土砂降りの雨に打たれた我が身は、妙に心地よかった。



## 第1回 沖縄病院 キックベースボール優勝!

西2・医事(ニチイ)チーム キャプテン:安里 悟



6月2日(土)は梅雨の時期との事もあり、あいにくの曇り空でグラウンドも少しぬかるんでいて水溜りもありましたが、午前中に実行委員の皆様がスポンジや砂でグラウンドの整理を行ってくれた為、無事に「第1回 沖縄病院キックベースボール大会」が開催されました。

試合中は雨が降ったり止んだりの天候でしたが、勝負事になると皆さん真剣になり全力でプレーされ、勢いあまり転倒なのか?ヘッドスライディングなのか?好プレーや珍プレーが流出、どの試合もシーソーゲームで大会は盛り上がりました。

私達、西2・医事(ニチイ)混合チームは、大会前から優勝候補と言われ、プレッシャーを感じつつ、1回戦では、西2の島袋大介さんが、みごと先頭打者ホームランで、先制点を区切りに打線爆発、続く2回戦は、先制されるも、若さとスタッフの子供さんの活躍もありいつの間にか逆転勝利。意気込んで望んだ決勝

戦は、雨が強くなりグラウンドにもかなりの水が溜まりどうなるのかと心配されました。(のちに院長先生の話では、中止の決断をしようとしたが、雨の中での闘志溢れる両チームのプレーを見ていると、中止は出来ないと試合を続行されたそうです。)

試合は序盤から終盤まで気の抜けない展開で、満塁一打逆転のピンチでは、痛烈なショートライナーを弾いて万事休すかと思われました。2塁ベース上にいた宮北昌奈さんが弾いたボールをナイスキャッチ。チームメイトのテンションはマックスに盛り上がりました。ウィニングボールはファーストフライを上原卓也さんがしっかりとキャッチ。どの試合も苦しい試合でしたが、チームが一丸となつてつかんだ優勝でした。

試合後の表彰式及び懇親会でも多くの方が参加され、皆さん大酒飲みでベロンベロンに酔っ払っていました。

西2チームは療養介助員の参加が多く、普段は他部署の方との交流する機会があまり無く、挨拶程度ぐらいしか関わりが持てませんでしたが、今回の大会&懇親会で多くの方々との交流がもて、皆とても楽しかったとの事でした。また第2回、3回とレク大会が開催される事を願っています。



## 第1回 沖縄病院 キックベースボール大会に 参加して 準優勝

中3病棟  
副看護師長 上原あすか



6月に行われたキックベースボール大会で、私達中3病棟は見事準優勝を頂く事ができました。「優勝賞品をもらおう」を合言葉に、私達は企画課・情報・連携室・倉庫とチームを組みました。

日頃あまり関わりが少ない事務部門との合同チームは、最初ぎこちなさもありましたが、白石課長・長岡業務班長・平田係長・診療管理室の津留さんの大き

な掛け声で盛り上がり、大雨の中珍プレーや好プレーの連発で、北3病棟の強敵チームにも勝つ事ができました。また、大雨の中応援して頂いた看護部長さんありがとうございました。

スタッフ同志、病棟ではあまり見られない一面や、優勝という一つの目標に向かっていくチームの姿勢をスポーツを通して体験することができ、またスポーツ大会を通してよりチーム一体となって取り組む楽しさを感じる事ができました。今後もチームワークを大切に、病棟スタッフが一体となって目標達成していけるよう取り組んでいきたいです。



## 第1回 沖縄病院 キックベースボール大会に 参加して MVP

中3病棟  
喜友名 由紀

今回行われたキックベースボール大会では、院長賞という大きな賞をいただきました。ありがとうございます。

参加してみて、さすが皆さん医療従事者だなと感じました。キックベースボールは一人の力だけではプレーすることはできません。今年3月に学校を卒業して看護師として病院で働いてみて、医療者にはチームプレーが大切だし、先輩方はチームで動くということ



大切にしていると感じました。チームプレーが重要であるという点で、医療に従事することとキックベースボールには通じるものがあるのではないかと感じました

今回は、チームメンバーがアドバイスを下さったり、励ましてくれたからこそできたスライディング(転倒?)だと思っています。メンバーや応援して下さった皆さんののおかげで楽しく参加することができ、不安や緊張がとれストレス発散することができました。また、皆さんがいたから自分も頑張らなければと思うことができました。本当にありがとうございました。

## 川畑 副院長賞 敢闘賞 頂きました!

外来 新里 恵



の?と幾人のスタッフから声をかけられた。川畑副院長、実は私炭水化物抜きダイエット中です達成時の祝杯として賞品は保管中、賞味期限までには頑張りたいと思います。有難うございました。

日々の体力確認の為意を決し参加しました。あいにくの天気中止を願いつつグラウンドへ参加人数の多さに圧倒されいつの間にかグラウンドの上に!!試合が始まると参加者は真剣モード日ごろの体力の衰えを忘れ足が絡み転ぶ人・ボールを追っ駆け滑る人あり、これはキックベースボール?それとも吉本新喜劇のコントか!お腹が痛くなる程笑いの場面続出類にもれず明日の仕事大丈夫かと思うほど転んだ私でした。そのプレーのおかげか?副院長賞を頂きました。皆の注目の的は商品の中身賞品は何だった



# 2012年日・中・韓・フレンドシップ・ウエイトリフティング(力道)トーナメントに参加して



国立病院機構沖縄病院 副院長  
川 畑 勉

学生時代、スポーツに明け暮れ、卒業後はその道を極めんと欲する者の力とならんがために日本体育協会スポーツドクターとして国体に帯同し、物事を頼まれれば断りきれず、気が付けばいつのまにか沖縄県ウエイトリフティング協会会長をお引き受けしていた。

まもなくロンドンオリンピックが開幕する。あるいは皆様がこの原稿をお読みの際はすでに開幕しているのかもしれない。オリンピックはスポーツをこよなく愛するアスリートにとってあこがれであり、夢の舞台である。そこには一握りの選ばれし者にしか参加が許されない。その夢舞台でのウエイトリフティング競技に沖縄県から1984年～2008年までの7大会中、実に6大会に選手が出場している。私も2000年のシドニー大会と2008



年の北京大会に支援コーチとして参加させていただいた。沖縄県が重量挙げ王国、あるいはお家芸と呼ばれるゆえんである。今回のロンドン大会にも候補選手は数名いたが、あと一歩及ばなかった。僅かな差の次点で涙を飲んだ選手もいた。日本の男子に至っては僅かに一人だけの出場枠しかなかったことを考えれば仕方ないことである。

さて、本年6月18-19日に韓国において日・韓・中・ウエイトリフティングトーナメントが開催され

た。日本協会の推薦を受け、日本選手団25名の団長を仰せつがい、大変な光栄との思いで臨んだ大会であった。



韓国では、ウエイトリフティングのことを『力道』という。単なるスポーツの側面を超越した武道としての一面も感じられる。この大会はソウルオリンピックを機に3か国の持ち回りで開催され、次世代のオリンピック代表を目指す選手で構成されており、これまで数多くのオリンピック(オリンピック選手)が誕生している。

日本選手団の布陣は団長の私と監督・コーチ7名、審判2名、男子選手8名、女子選手7名であった。韓国仁川空港に到着すると、韓国ウエイトリフティング連盟の出迎えを受け、『JAPAN』のネーム入りバスでソウルから157Km離れた北朝鮮との国境に近い江原道・楊口へ向かった。途中、中国選手団と合流したあとはパトカーに先導されての現地入りとなったが、韓国の粋な計らいに日本代表を意識した瞬間でもあった。今大会では、日本は世界の強豪国である韓国・中国を相手に健闘し、銀メダル7個、銅メダル7個を獲得した。日本選手には精神力、技術、体力(心・技・体)の違いを分析し、記録向上のためにどう行動するかを課題を与えた。今回の代表選手の中から4年後のリオデジャネイロオリンピックに複数選ばれることを期待したい。

また、大会終了後に韓国の歴史・文化に直接触れ合う機会があったが、国境近く故、装甲車が行き交う日常を見るにつけ、日本がいかに平和で恵まれた国であるかを知る機会でもあった。



# トルコを旅して

西1病棟 田場 利恵



パムッカレの石灰棚

毎年楽しみにしている海外旅行の行き先として今年  
は『トルコ感動紀行 8日間』のツアーに参加した。成  
田空港から約 13 時間の飛行機移動を経てイスタンブ  
ールへ。その日はホテルで疲れをとり、次の日から再  
びバスで 385 km (約 7 時間) の移動。最初の観光で  
世界遺産であるトロイ遺跡を見学した。有名なトロイ  
の木馬は内部に入ることができたが、トロイ遺跡は遺  
跡として綺麗に残っておらず少し残念な印象だった。  
その日はホテルの前にエーゲ海が広がっており美しい  
景観を眺め飲むビールはおいしかった。

遺跡として感動したのはエフェス遺跡。ヴァリウスの  
浴場、公衆トイレ、セルルス図書館、娯館、など  
古代都市遺跡という名の通り華やかな文明を思い起  
こせるような素晴らしさがあった。大劇場という所  
では約 2 万 4000 人を収容できたというトルコで最大級  
の円形劇場があり、その大きさに圧巻した。そして私  
が一番訪れたかったパムッカレの石灰棚。白い石灰

棚の温泉に足だけ浸りながら、パムッカレの街を見下  
ろす。初めてみる風景にとっても感動したのと、こんな  
世界があるのだと不思議な感じがした。もう一つ素晴  
らしかったのはカッパドキア。どこまでも奇岩が広が  
り、ラクダやキノコの形をした岩もあり見えて楽し  
かった。そして、朝 3 時起きでカッパドキア気球ツア  
ーに参加し、上空から奇岩群と朝日を鑑賞した。たく  
さんの気球が並んでいる姿も、忘れられない良い思  
い出になった。



カッパドキアの奇岩



カッパドキア気球ツアー

## 沖縄病院一般向け無料公開講座が下記のとおり開催されました。

	年月日	曜日	テーマ	講師
第 90 回	H24年 5月11日	金曜日	「～血糖をうまくコントロール～ 糖尿病の食事療法」	栄養管理室長 吉丸 健一
第 91 回	H24年 5月18日	金曜日	「～痛みや苦しみのないガンへ～ がんの緩和ケア」	呼吸器内科 緩和ケア専門医 大湾 勤子
第 92 回	H24年 5月25日	金曜日	～肺がんにまつわる「よもやま話」～	呼吸器外科専門医 川畑 勉
第 93 回	H24年 6月1日	金曜日	「～自宅で療養～ 在宅での介護について」	沖縄病院 中3病棟 看護部
第 94 回	H24年 6月8日	金曜日	「～アスベスト検診で安心～ 石綿・アスベスト関連の病気について」	呼吸器内科専門医 久場 睦夫

第 95 回以降も計画しています。また、来年の 1 月には記念すべき、第 100 回目を迎える予定と  
なってます。継続は力なり。職員一丸となって記念講演を成功させましょう。

# ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル が今年もやってきた!!

当院とニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル(以下; NYSEと略す)の出会い、一昨年、ある1本の電話から始まり、今年は当院で、2回目の開催となった。

NYSEは、指揮者の高原 守氏が率いる楽団で、1979年ニューヨーク・メトロポリタン室内管弦楽団として発足し、その後間もなく現在の名称に改められ、今年で31シーズン目を迎え、ニューヨークを拠点に活躍する国際的なオーケストラです。

どのような経緯から、このようなメジャーな楽団が、当院においてホスピタルコンサートが実施されるようになったか定かではないが、当院において必死に闘病生活を送られている患者さん、それを支えるご家族、並びに献身的にサポートする病院スタッフに、少しでも安らぎと、本物のコンサートの音色を提供したい。という楽団員の心とが一つになり実現したのではないかと考えているところです。

また、外国人特有のボランティア(社会貢献活動)に熱心であることも1つの要因にあるのかと推察しているところです。

コンサートを開催するにあたり、事前にボランティアスタッフを募り、院長以下、総勢50名余のスタッフが集結し、会場設営、楽団員の持てなし、患者さんの搬送等々に汗を流した。

(楽団員は)午後1時の到着後間もなく、音合わせ(リハーサル)が行われた。リハーサルも終え、開演時刻(2時30分)が、刻一刻と近づいてきます。一昨年は、リハーサル中から、その音色を聞きつけ、観客(患者さん)が続々と入り始めたとのことであったが、今年は疎らである。なんとタイミングの悪い事に、当日は、沖縄県の高校野球の決勝戦が行われていたのである。言わずと知れた沖縄県は、熱心な高校野球ファンが多い県であり、ましてや決勝戦である。一瞬、最悪のシナリオが頭をよぎった(本当にあせりました。( ^ \_ ^ ; ) (T\_T) (> \_ <)) 焦ったのは私だけではなかったと思います)。

しかし、そんな取り越し苦労もつかの間、開演時刻には、大勢の観客で外来ホールは一杯になり、交響的物語“ピーターと狼”作品67を皮切りに、合計6曲(別紙

プログラムのとおり)、が演奏され、1曲、1曲が終了する度に拍手が起こった。あつという間に終了した、本当に夢のようなひとときだった。



開演中、会場のあちらこちらと見て回ったが、体でリズムを取りながら聴き入る者あり、目を閉じ熱心に聴く者あり、はたまた、心地よい音色に夢うつつの者ありと、各々に演奏を楽しんでいるようだった。

病院の外来を演奏会場にした手作りコンサートです。手作りならではのアットホームな音色は、コンサートホールのように音響設備が整った場所で演奏される音色にも負けない、独特な音色を醸し出していたと思っております(私は、自慢するほどのものではないが、芸術(特に音楽)的なセンスは一切ありません)。

全ての演奏が終了し、患者さんを代表し、野原 真作さんから、指揮者の高原 守氏へ花束の贈呈。引き続き病院を代表し、大湾緩和医療科医長より、流暢な英語と日本語によりお礼の言葉が述べられた。さらに、院長より楽団員への記念品が贈られた。

最後に、楽団を代表し、高原 守氏から、患者さんへ、『絶対、絶対、絶対、絶対(病気を)良くなって下さい。』と応援メッセージがあり、感動的なフィナーレとなった。





## ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル ハートフル・コンサート！

沖縄病院一階ロビーでは、2年ぶりの「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル」演奏会です。前はラフな恰好で汗だくになってタクトを揮う高原さんがありました。終了後、帰りがけに「また来て下さい」と声をかけましたが、覚えていてくれたのでしょうか。今回、それを果たしてくれたようで嬉しかったです。世界中から集まったプロの演奏家。高原さんが思い通りに集団を操る姿は、涼しげで軽やかに映りました。その所為か奏者との一体感がとても気持ちよかったです。「ピーターと狼」では、楽器で登場人物や情景を奏で物語りの中へ誘います。一人ひとりが役を演じる台詞回しはリズムカルで面白かったです。アンダーソンの「トランペット吹きの子守歌」では、トランペットのジョッシュさんとシシルさんとの掛け合いが絶妙でした。そして、フルート奏者のキースさんとハーブ奏者の奈菜子さんにはつい見とれてしまいました。アンコールの「威風堂々」は何故かしら麻婆豆腐が浮かんできました。今回、よりグレードアップしたように聞こえたのは気のせいでしょうか。

演奏会が終わると急いで掛けよりハーブを見せ

てもらいました。47弦に7つのペダル？。初めて見る楽器は思った以上に重厚でした。思わず「千と千尋の神隠し」の演奏をリクエストしました。すると即興で披露してくれました。周りからは拍手です。間近で聴くハーブの音は感動ものでした。生の音はやはり最高です。ほんのひと時、目に見えない元気を頂きました。

スタッフの皆様、本当にありがとうございました。



ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル

プログラム  
2012 7/15 (日)

【プロコフィエフ】  
交響的物語 「ピーターと狼」 作品67

【モーツァルト】  
フルートとハーブのための協奏曲  
ハ長調 K.299 より2楽章

【ガーシュイン】  
サマータイム 「ボギーとベス」 より

【アンダーソン】  
トランペット吹きの子守歌

2012 7/15 (日)  
【エンター】  
行楽曲 威風堂々

コンサート当日のプログラム

### 「ピーターと狼（おおかみ）」

ロシアの作曲家・プロコフィエフが音楽の楽しさを子どもたちに伝えたい、という依頼を受けて作った楽劇。当演奏会でも大好評を博しました。

主人公ピーターが、動物たちと協力してオオカミを捕らえるまでのお話しを、楽団員らはピーターを弦楽器で、小鳥はフルートなどの木管楽器で…と、いろいろな楽器が動物の種類に分かれて登場して表現します。楽しく聴いている内に各種楽器の魅力・そしてクラシック音楽の世界に引き込まれていく作品です。

## 平成24年度 副院長研修に参加して

沖縄病院副院長  
川 畑 勉



今年度の副院長研修が6月28日-29日に国立病院機構研修センターで行われた。初日は桐野理事長のご挨拶の後、医療安全と医事紛争、コンプライアンス、病院経営、労務管理、診療情報分析・臨床評価指標について講義がなされた。副院長の果たす役割の多さに驚嘆さえ覚えた。中でも西群馬病院の斉藤院長の講演の中で、(外科医はメスを下す覚悟で対処せよ)の意味するところが外科医である私の脳裏に強く焼き付いている。

さて、2日目の午前中は1グループ4-5名、A～Eの5グループに分かれてのグループ討議である。我々のグループは、いわき病院、南京都病院、東徳島医療センターであった。各病院ともSWOT分析を用いた手法で自院の現状と課題について発表することから始めた。それぞれの病院の抱える問題点を共有した後、それぞれの対策についても

話し合った。午後のグループ討議ではグループから1病院を選んで、理事長以下、機構本部職員も交えての質疑の時間である。我々のグループは沖縄病院をモデルケースとして発表することとなった。

当院の問題点を平成23年度の経常収支率が赤字であったこととした。その原因は外来、入院とも患者数の減少によるものである。さらに患者数の減少を考えると5点の指摘があった。それぞれについて、診療情報分析も加味しながら改善策が提案された。詳細については幹部会議などにて報告した。最終的にまとめられた解決策はすぐに行うべき提言であり、さっそく実行に移している。

本研修会を通じて多くの病院が共通の問題点を抱えることも認識した。多くの病院との連帯感も生まれた。私にとって非常に有意義な研修であった。

## 平成24年度幹部看護師(副看護部長等) 管理研修Ⅱに参加して

副看護部長  
入 来 恵智子



平成24年6月11日～29日の3週間、ハンセン病療養所を含む全国の新任の副看護部長・副総看護師長31名が集まり、国立病院機構本部の研修センターにおいて研修が行われました。研修では、副看護部長としての役割を遂行していくうえで必要な知識や心構え・思考の在り方について学ぶことができました。

「保健医療福祉システム」の講義では、日本の医療(病院数、病床数等)の現状や平成24年度の診療報酬・介護報酬改定のポイント・今後の医療の方向性を学びました。この講義で特に感じたのは、常に社会情勢等を通して様々な情報収集を行い、診療報酬改定についても病院として早い段階から取組みを行ったり、5年先、10年先を見据えた整備をどのように行っていくのかという事を考えアンテナをしておく必要があるということです。

「看護管理」「病院組織論・組織倫理」では、人材育成のポイントや組織としての在り方について学ぶことができたが、どちらでも組織として「真摯さ」が

重要であるという言葉があり、共感することができました。

研修期間の半分以上の時間を費やし、「医療安全管理体制の充実」「看護職員の効果的な教育支援」「病院の活性化と労務管理」「病院経営における看護部門の果たす役割」の4つのグループに分かれパネル討議を行いました。私は「病院経営」のグループでしたが、パネル討議を重ねる中で管理診療会議等で示される病院の経営指標をいかに読んでいくかが重要であると感じました。また、看護部門は病院組織の中で最大の専門職の集団であり、患者の最も身近で看護を提供し他部門と連携・協働することができることから、経営意識を持ちながら経営参画していくことは病院として大きな力になり得ることができると感じました。

長い研修期間の中で、多くの学びと他病院の副看護部長さん達との交流を持つことができました。今後、これらが活かせるよう副看護部長として役割遂行を行っていきたいと思います。

## がん看護エキスパートナース研修に参加して

中3病棟  
港川 江梨子



今回、6月25日～7月6日まで九州がんセンターで「がん看護エキスパートナース研修」を受講しました。がん専門病棟の中で、痛みのある患者、患者に付き添う家族、悩んでいる患者、家族に対し十分なケアが提供出来ていないと日々、感じている自分がいました。この悩みを解決し、よりよいがん看護が提供できるようにと思い、がん看護エキスパート研修に参加しました。

研修は、講義・実習・グループワーク、多くの分野で学び、チーム医療における看護師の役割・症状マネジメントの展開の仕方なども学び、病態生理から看取りの看護までの講義を受けることで自分の知識不足を痛感しました。また、結果だけではなくその過程の意味を理解することがとても大切だということ学びました。

私が今回の研修で特に学びを深めたかった家族看護では、終末期患者の家族との向き合い方や家族に声をかけること、関心を寄せ続けること、共に揺れ、考え続けるプロセスを共に歩いていくという家族と共に看護することの大切さを感じました。家族の一人が、がんになる事によってその影

響は患者から家族へ広がり、家族に様々な影響を及ぼす事も考えながら、家族へも寄り添った看護を行っていきたいと思います。

講義、実習、グループワークを通して多くの学びを実践に変え、患者によりよいがん看護が提供できるように努力していきたいと思います。今後の課題として、①多職種間でのカンファレンスを適宜開催する。②病棟学習会を開催し、がん看護における看護師の役割をスタッフへ伝達していく。③統一した看護ケアが出来るように受け持ち看護師へ声かけし、看護計画の具体策を立案できるようにしていく。④適切な痛みのアセスメントを行い、薬剤の評価を主治医と定期的に行えるようにしていく等です。その為には、自分自身が実践し、がん看護のエキスパートになっていきたいと思います。

研修中は他の病院の方との出会いもあり、みんな夕食を食べに行ったり多くの交流の場をもつことが出来ました。このような機会を与えてくれた院長、看護部長、師長に感謝し職員へフィードバックしていきたいと考えています。ありがとうございました。



## ストレスについての一考察

療育指導室 主任保育士  
小林 聡子

この4月に、長崎から移動してきた。  
覚悟していたつもりだったが、沖縄は遠い！  
そして暑い！！

さて先日、沖縄国際大学の上田先生のストレスマネジメント講座を拝聴した。

その内容によると、転勤や結婚など非日常的な出来事がストレスの要因、ストレスになるとの事だった。さらに、そういう人生のイベント以外にも、住んでいる住居が古いとか一家団欒

の時間の変動なども日常ストレスの原因になるとの事だった。

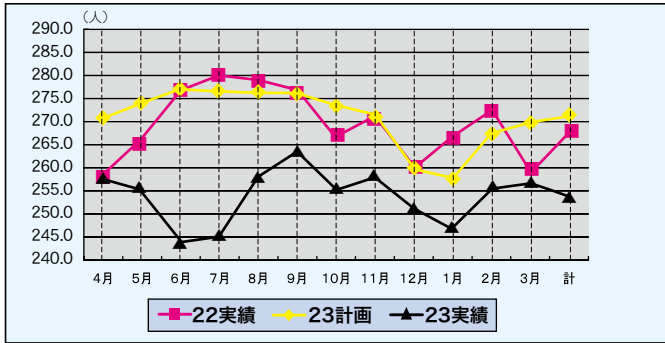
…ということは、今の私は、転勤して新しい環境で右往左往し、文化や食生活の違いを乗り越え、さらに暑さにも耐えなければいけないのか？！

これはもう、寝るか、飲むかしかないと考えていると、そういう対処の方法はあまり良くないと言われてしまった(笑)

とりあえず、今のところ顕著なストレス反応が体重増加の様なので、これ以上は阻止すべくエイサーでも踊ろうと思っている毎日である。(実際、少し踊ってます)

# 医事統計

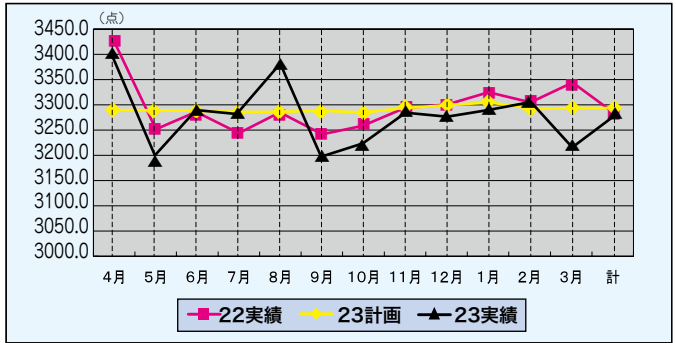
## 一日平均患者数(入院)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
22実績	259.0	266.6	277.3	280.1	279.2	276.7
23計画	271.0	274.3	277.0	276.3	276.5	276.3
23実績	258.2	255.2	244.3	245.4	257.9	263.8

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22実績	267.4	271.4	259.9	266.6	272.5	259.1	268.1
23計画	274.0	272.0	259.5	257.3	267.9	270.1	271.0
23実績	255.2	258.1	251.4	246.9	255.6	257.2	254.1

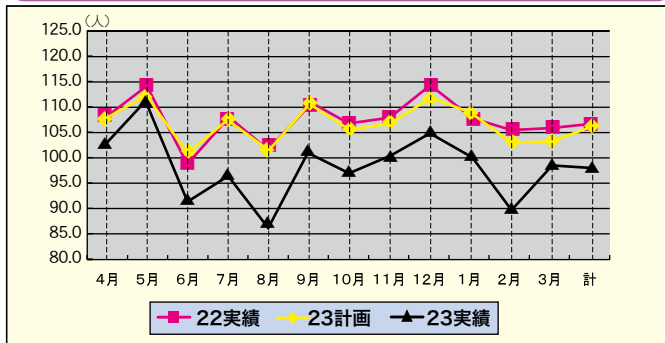
## 一人一日あたり診療点数(入院)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
22実績	3,436.5	3,246.3	3,286.7	3,239.9	3,284.1	3,238.1
23計画	3,290.7	3,286.2	3,289.6	3,286.1	3,284.2	3,287.7
23実績	3,402.8	3,195.9	3,292.2	3,279.4	3,386.7	3,187.6

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22実績	3,254.5	3,293.0	3,299.9	3,328.6	3,307.7	3,346.3	3,285.2
23計画	3,286.4	3,290.8	3,301.7	3,302.1	3,291.1	3,291.9	3,290.6
23実績	3,217.4	3,284.0	3,275.8	3,291.2	3,302.2	3,208.7	3,276.5

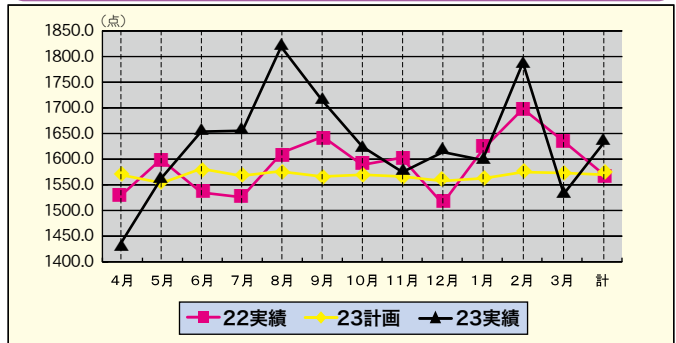
## 一日平均患者数(外来)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
22実績	108.3	115.2	98.8	108.3	101.7	111.2
23計画	108.1	113.2	101.3	107.9	101.4	111.5
23実績	103.5	112.3	90.9	96.6	85.9	101.1

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22実績	107.5	109.1	115.9	108.8	106.2	106.2	107.9
23計画	106.2	107.9	111.9	109.7	103.7	103.8	107.0
23実績	97.2	100.7	105.6	100.5	89.4	98.8	98.2

## 一人一日あたり診療点数(外来)

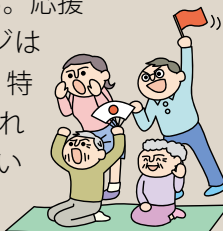


年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
22実績	1,539.2	1,605.7	1,542.4	1,536.6	1,616.2	1,647.2
23計画	1,573.6	1,561.9	1,589.3	1,573.0	1,582.1	1,574.2
23実績	1,443.0	1,570.8	1,656.1	1,660.0	1,820.3	1,720.1

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22実績	1,595.1	1,607.1	1,522.1	1,618.4	1,700.9	1,642.5	1,578.7
23計画	1,575.0	1,572.6	1,565.7	1,570.5	1,581.5	1,582.5	1,575.3
23実績	1,629.5	1,582.2	1,618.2	1,603.3	1,184.6	1,540.9	1,633.7

## 編集後記

4年に1度のスポーツの祭典であるオリンピックがロンドンに於いて行われ、引き続き、パラリンピックが開催されている。そのオリンピックでの日本選手の活躍に、日本中が一喜一憂していた。小生も多分に漏れず、テレビの前で日々応援していたものである。応援に熱が入るあまり、今のジャッジはおかしいだの、間違ってるだの。特に、日本選手に不利な判定が下されるものなら・・・と熱くなっている自身がいた。



オリンピックが終わり、ふと、我に返って考えてみた。

本来、オリンピックとは、アマチュア選手の祭典であり『出場することに意義がある』だったはずである。しかし、近年はプロ化が進み勝利至上主義が主流となりつつある。その事が良いか悪いかは別として、今後も、選手にはスポーツマンシップ精神を期待し、また、我々ファンは、その選手の頑張りに惜しみないエールを送り続けたい。

最後に、オリンピックの感動、有り難う。そして、現在行われているパラリンピックの成功を祈念したい。

## 編集委員

川畑 勉、伊藤 淳司、入来 恵智子、山下 博史、待鳥 泰浩、八木 茉璃、吉丸 健一、新里 満、安里 英子、島田 明子、金城 富樹、大城 英作